

Title	孝経目録補遺並江戸時代孝経刊行年表
Sub Title	
Author	大沼, 晴暉(Onuma, Haruki)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1984
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.21 (1984. ) ,p.151- 186
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	太田次男教授退職記念論集
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000021-0151">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000021-0151</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 孝経目録補遺並江戸時代孝経刊行年表

大 沼 晴 暉

## 例 言

あるが、前稿成稿後次に記す孝経コレクションを調査することを得たので、今回これを所蔵者の項に増補した。

一、本稿は先に斯道文庫論集第十四輯に発表せる「江戸時代孝経類簡明目録」(阿部隆一と共編)・同十八輯所収「清朝以前成立孝経類目録」成稿後目録し得た孝経類を著録し、江戸時代に刊行された孝経類を刊・修・印年順に調査整理したものである。但し本年表は刊年の記載あるものと、序跋によって刊年を推定できるものととどめ、無刊記本については省略した。

一は元旧制岸和田中学校長落合保氏の旧蔵書で、現在大阪府立岸和田高等学校に蔵されている。これは同校に一時教鞭をとられたことのある前田金五郎氏からの御教示による。この調査が縁となり、同校所蔵の近世近代教科書類を多数含む蔵書目録作成のお手伝いをすることとなり、それらは近時公刊の予定となっている。

一、本稿に著録した書物の範囲は前稿凡例にふれる所と同じで

二は石川県の金沢大学図書館に現蔵されている元住友鋳業役員松本順吉氏蒐集の孝経類で、昭和廿一年同校に寄贈された旨の印記がある。一九七九年、三一書房刊の「全国図書館

案内」下には昭和十七年寄贈とあり、或は整理を終えたのが廿一年なのであろうか。

三は都立中央図書館現蔵の諸橋轍次氏旧蔵本で、これらは

「東京都立日比谷図書館蔵 諸橋文庫目録」と、一部が「同

特別買上文庫目録 諸家 漢籍」の部に著録されている。

一、孝経目録の補遺の記載は前二稿の凡例に準じるが、番号は新に別番号を付すことをせず、前稿目録の著録さるべき場所の前の番号の後に補の字を以て宛てた。即ち123補とあれば、123番本と124番本との間に分類さるべき本であることを意味する。

一、本年表の基礎となったのは、前記「江戸時代  
刊行成立孝経類簡明目

録」であり、本年表記載の書名上の番号は該書のそれである。

本年表では煩雑になることをさけ、テキストや漢人の原撰者名は省略し、邦人の点校者や撰述者名を掲げることとどめた。

従ってそれらについて必要な場合は、御面倒ながら該書を御覧頂きたい。略述すれば、1—61が単経古文、62—102が孔伝、103—139が単経宋古文、140—142が指解、143—149が刊誤、150—168が大義、169—171が古文系の漢人撰述書、171補—246が同じく邦人撰述書、247—261が単経今文、262—266が鄭注、267—270が開元

始注本系御注、271—273が天宝重注本系のそれ、274—282が今文系漢人撰述書、283—292が同じく邦人撰述書、293—299が折衷本、300—302が漢人撰述総論評論類、303以下が邦人撰述のそれである。

一、年表記載の順序は、刊・修・印年月、発行地・発行者、特殊な印刷等の注記、番号・書名、撰者（漢人の撰者名は殆ど省略）・点校者等、所蔵者、一般的な注記・参照・参考事項である。

一、所蔵者は左記の略称を以て記した。

石（大阪外国語大学図書館蔵石浜文庫・石浜純太郎氏旧蔵） 岡（岡山大学図書館・中垣正光氏旧蔵） 落（大阪府立岸和田高校・落合保氏旧蔵） 金（金沢大学図書館・松本順吉氏旧蔵） 狩（東北大学図書館蔵狩野文庫・狩野亨吉氏旧蔵） 規（長澤規矩也氏旧蔵） 慶（慶應義塾図書館） 玄（関西大学図書館蔵玄武洞文庫・田結莊金治氏旧蔵） 斯（慶應義塾大学  
附属研究所） 斯道文庫） 相（相山女学園大学図書館） 東（東京大学図書館） 浜（慶應義塾大学  
附属研究所） 斯道文庫蔵浜野文庫・浜野知三郎氏旧蔵） 林（林秀一氏旧蔵） 諸（都立中央図書館・諸橋轍次氏旧蔵）

一、本稿を成すにあたって貴重な御所蔵本の閲覧複写を忝うした所蔵者の方々に心から厚く御礼申上げる。また本稿は阿部隆一を代表者とする共同研究へのトヨタ財団より昭和五十三年以来三か年にわたる研究費補助を得た、その成果の一部であることを銘記し感謝の微意を表する。

### 江戸時代孝経類簡明目錄補遺 刊行成立

#### 一 刊 本

11補 同 天保三年五月刊（仙台 伊勢屋半右衛門・江

戸 小林新兵衛） 大一冊（覆刻）

⑧春台先生訓点。木記なく奥付「天保三歳次壬辰夏五月素梓／書林／東都日本橋南二丁目 小林新兵衛／仙台国分町十九軒 伊勢屋半右衛門」 ⑨家蔵。

23補 「孝経」〔江戸後期〕刊（松前 徽典館） 大一冊

（木活）

①表紙に直接「以活字  
梓発焉孝経／松前 徽典館」と刷印（整板）

③享保十六年辛亥十一月壬午（天保）太宰純序。孔序 ④第一丁匡郭・

版心のみ薄く見ゆるも文字欠 ⑤左右双有7行16字。白口。版心下部に「徽典館」 ⑥孝経終 ⑨函館市立図書館 ⑩巻末に「嘉永年間松前昌広館員ニ命シテ／活字ヲ以テ孝経ヲ梓発シテ管内ニ偏ク／学ハシムルノ意ナリト云フ後慶応三年／余句読助教ヲ勤ムルノ際之ヲ刻シ匣／裡ニ収ム今函館図書館ノ乞ヒニ依テ／之レヲ同館ニ収上ス／蠣崎敏」の識語あり。

133補 孝経 刊 大一冊

③誦経威儀 ④孝経 ⑤無無7行16字 ⑨都立中央図書館中山久四郎氏旧蔵本 ⑩書題簽に「朝拝孝経 朝鮮本 全」とあるも疑わし。134番本と粗なる覆刻関係あるか。白文。

146補 孝経刊誤 〔江戸後期〕刊 大一冊

① ④孝経刊誤 ⑤単有10行20字。白口 ⑨東京大学東洋文化研究所 ⑩見返に「御蔵判文化九年七月於江戸／戴之／氏家藤延寿」、裏表紙見返に「文化九年七月於親様／英山様より被御賜候／之御品也」の墨書あり。白文。

17補 孝経刊誤考例 〔向井玄升〕撰カ 万治二年六月刊

（京） 池田屋） 大一冊（向井玄升付与本）

①篆書体、墨書か。或は題簽をなぞりしものか ③孝経刊誤考例序。凡例 ④孝経刊誤考例 ⑤双無9行20字小双。白口 ⑧

万治式年／林鐘上旬／池田屋刊行 ⑨無窮会図書館 ⑩裏表紙見返に「右孝経刊誤考例一冊／付与門人津田元粮生／靈蘭堂／朱印二顆」の識語あり。

301補 孝経列伝 明胡時化編 「江戸前期」刊 大五冊

(覆明・絵入)

①孝経列伝一(一五) ③御製孝順事実序。孝経列伝目録 ④孝経列伝 浙姚胡時化編集、⑤左右双有7行15字。白口。「卷之七」と刻す ⑨狩慶玄林。

129同 安政二年八月刊 大二冊 (覆文政十三年三月刊)

本)

① ⑧文政十三年春三月／安政二年秋八月再刻 ⑨福井市立図書館 ⑩従って129孝経は「後印」(福井 帶屋喜平治)となる。190又 明治十七年〔通〕修(大坂 松泉堂松村九兵衛)

大三冊

①孝経国字解上(中・下) ②明治甲申年補刻／孝経国字解／大坂書林 松泉堂蔵 ③明治十七年八月五日馬場健序を加う ④享保三戊戌年孟春刻／明治十七甲申年補刻／大日本国大阪府 松村九兵衛／森本専助 ⑨大阪天満宮。

199孝経児訓 山崎長卿撰 明和七年十一月刊(大坂 永

昌堂柏原屋佐兵衛・丹波屋半兵衛) 大1冊

① ③明和庚寅夏六月山崎長卿序。孝経大意 ④孝経児訓 浪速 山崎長卿述 ⑤単有6行14字。白口 ⑧「(広告書目)／明和七庚寅年十一月／大坂書林／心齋橋南詰 丹波屋半兵衛／同北久宝寺町 柏原屋佐兵衛」。次に「永昌堂板行書目抜書」二丁を付す ⑨金 ⑩従って199孝経旁訓は「修」本となる。

三 未刊本

468鷺見慶明著 孝経大意

著者「すみ」と読むべく排列を誤る。著者は鳥取藩御用人で、その伝については「鳥取県史5近世文化産業」篇を参照されたい。(鳥取県立図書館) 近写一冊。藩史資料の為の近写本ならむ。

484補 孝経便蒙

刊誤本に基き、「孝経釈義便蒙」「孝経啓蒙」「孝経大義詳解」「經典餘師孝経」等と漢の諸書を引用し、ままた「愚按……」「又按……」等の按文を記す。経文全載。単辺有界九行の白口野紙使用。

(\*金) 写一冊。

清朝以前成立孝経類目録補遺

明

孝経集註・忠経集註 明江旭奇撰 (忠)旧題漢馬融撰

明李春培編 陶原良補

〔明末〕刊 徳島大学図書館

絵図孝経 清世祖注

清宣統三年刊〔修〕(上海錦章書局 石印) 落

追記四の追書き

なお王震刊本の影印と見られる民国六三年刊(台北漢華文化事業股份有限公司)本あり。二十四孝図説を付す。

### 江戸時代孝経刊行年表

慶長四年

刊(勅版・古活字) 1古文孝経―刈谷図書館・国会図書館・

宮内庁書陵部・天理図書館・東洋文庫。

七年

八月跋刊(古活字) 62古文孝経 清原秀賢校―京都大学付

属図書館・高野山宝亀院・東北大学付属図書館・東洋文

庫。

寛永五年

四月刊(覆古活字) 151孝経大義―岡狩規玄林。貞享元年六

月・文化十年参照。

十八年

八月〔印〕(京 田原仁左衛門・覆刻) 152孝経大義―石岡落

規玄斯相林。貞享二年一月・天明八年十一月参照。〔参

考〕無年紀の初印〔寛永刊〕本―斯東あり。

正保四年

八月刊(覆寛永十八年八月印〔寛永刊〕本) 153孝経大義―

岡狩玄東浜林。

承応元年

一月刊(五倫書屋・覆明) 300孝経宗旨・孝経引証―石規玄

林。

二年

一月刊〔京〕 中野市右衛門・覆明) 274 孝経本義―狩規玄  
斯林。

又〔後印〕(伊吹吉右衛門)―筑波大学図書館。

承応三年

七月刊〔京〕 中村長兵衛) 154 孝経大義―岡狩玄東林。貞

享五年五月参照。

明暦二年

四月刊〔京〕 武村市兵衛) 143 孝経刊誤〔山崎闇齋〕点―石

岡落金狩規玄相東浜林諸。〈参考〉刊記を削去せし後印

本あり―林。

八月刊〔京〕 武村市兵衛) 303 孝経外伝 山崎〔闇齋〕(柯)

編―林。

又〔修〕〔京〕 武村市兵衛) 山崎〔闇齋〕(嘉) 編―岡金

狩玄浜。序の題署を「後学山崎嘉序」と改む。〈参考〉

刊記を削去せし後印本あり―玄。

三年

一月刊〔京〕 中野道伴) 164 孝経大義(本末本) 杠宗之首書

―規。

又〔後印〕―規玄。刊行者名削去さる。

又〔修〕―狩玄林。熊禾序の序題下に「肥州杠宗之」と入木。

又〔通修〕〔杠宗之〕首書―岡規慶相浜林諸。「肥州杠宗

之」削去。天明八年十二月参照。

題一月刊〔江戸前期〕刊・覆明暦三年一月刊通修本か)

165 孝経大義(本末本)〔杠宗之〕首書―金東。刊年迄覆刻。

又〔後印〕〔京〕 本屋長兵衛)―岡金玄林。書肆名入木。

〈参考〉刊年を削去し「正月吉旦」のみを残す京 天王

寺屋市郎兵衛印本―規金玄、京 橘枝堂野田藤八印本―

家蔵、大坂 河内屋茂兵衛等印本―岡玄、大坂 群玉堂

岡田茂兵衛〔明治〕印本―関西大学図書館、無奥付本―

慶あり。

題一月刊〔江戸前期〕刊・覆刻) 166 孝経大義(本末本)〔杠

宗之〕首書―岡玄。刊年迄覆刻。

又〔後印〕〔京〕 鈴木太兵衛)―早稲田大学図書館。書

肆名入木。天明八年十一月参照。

題一月刊〔江戸前期〕刊・覆刻) 167 孝経大義(本末本)〔杠

宗之〕首書―岡。刊年迄覆刻。

万治二年

六月刊〔京〕 池田屋) 171 補 孝経刊誤考例〔向井玄升〕

撰カ―無窮会図書館。

万治三年

二月刊〔京〕 松長伊右衛門) 172 孝経見聞抄 三卷 題〔林

羅山) (道春) 撰―石岡落狩規玄相東浜林。元禄十六年

一月参照。

寛文二年

八月刊〔京 谷口三餘) 103 孝経―狩林。

題八月刊〔寛文) 刊 覆寛文二年八月刊本) 104 孝経―岡玄。

刊記迄覆刻。寛文七年一月参照。

三年

一月刊 121 孝経 (大義本)―規。

四年

九月刊〔京) 長尾平兵衛) 173 孝経〔纂註) 貝原〔存齋) 撰―岡金狩規玄東浜林。

(元端) 撰―岡金狩規玄東浜林。

又〔修) (大坂 播磨屋本三郎)―玄。内題下の「朱文公

較定」,「貝原元端纂註」の「元端」を削去。

又〔明治) 印 (大坂 群玉堂河内屋岡田茂兵衛)―石玄東。

十二月刊 174 大和孝経 六卷 〔山科長慮) 撰―狩東浜。

又〔後印) (京 山本長兵衛)―狩玄相東林諸。書肆名入木。

五年

五月刊〔京) 長尾平兵衛・飯田忠兵衛) 155 孝経大義―狩

玄林。

又〔後印) (京) 長尾平兵衛)―岡玄相林。飯田忠兵衛

削去。〔参考) 無年紀の京 出雲寺和泉掾後印本―石岡

玄相東浜林あり。

七年

一月〔印) (京 田中文内) 104 孝経―落玄。寛文二年八月参

照。〔参考) 刊記を削去せし後印本―規玄、同じく京

菊屋安兵衛後印本―規玄林、同じく内題下に「開宗朋誼

章第一」と入木せる修印本―規林あり。

〔三月) 刊 105 孝経―初印本未見。明和二年九月参照。

八年

一月刊〔京) 中野道伴) 176 孝経啓蒙 四卷 〔中江藤樹) 撰―相林。

又〔後印) (京 野田庄右衛門)―玄。

又〔後印) (京 野田庄右衛門)―玄。

五月序刊 (西田爾弓齋) 178 増註孝経大義 二卷 片〔山

松庵 (朴元) 撰―石狩規玄相東浜。

八月刊 (覆明) 275 吳文正公較定今文孝経―規玄相。



又〔修〕—梶東林。前付「朱子刊誤原式」「吳文正公較定今文孝經考」とありしを、兩題署を削去し、首を「吳文正公較定今文孝經考」と改む。

寛文九年

二月刊〔京〕唐本屋宇兵衛・覆明） 276孝經集伝 四卷—狩。

九月刊〔京〕小嶋弥左衛門） 179孝經大義講草鈔 六卷〔小出永庵〕撰—石金規玄相東浜林。

又〔後印〕〔京〕上村次郎衛門—落狩。

十年

九月刊〔江戸〕河村利兵衛） 156孝經大義 題〔林〕羅山

点—林。

又〔後印〕—岡玄相東浜林。書肆名削去。

又〔修〕〔大坂〕田原屋平兵衛—岡玄東林。上花魚尾。

柱題の「新註」・中央の黒口部を削去。

又〔後印〕〔大坂〕定栄堂吉文字屋市兵衛等—玄相。

又〔後印〕〔大坂〕松村九兵衛—狩林。

又〔後印〕〔大坂〕敦賀屋彦七・同九兵衛—規林。

又〔後印〕〔大坂〕伊丹屋善兵衛等—大阪府立図書館。

又〔明治〕印〔大坂〕文栄堂前川善兵衛—岡玄林。

十一年

二月刊〔京〕靈蘭堂） 293孝經〔辞伝〕 向井玄升撰—規玄。

延宝二年

八月刊〔大坂〕清左衛門・京 伊兵衛尉） 168孝經大義 二卷〔毛利玄斎〕首書カ—岡落。

又〔後印〕〔京〕伊兵衛尉—玄林。「大坂心斎橋 清左衛門」を削去。次掲参照。

四年

二月〔印〕〔大坂〕清左衛門・京 伊兵衛尉） 168同前書—石

岡狩規玄斯東林。嘉永四年五月参照。〔参考〕刊記を削

去せる後印本—狩斯東、同じく大坂 河内屋茂兵衛等後

印本—玄、大坂 河内屋徳兵衛後印本—林あり。

五年

十月刊〔江戸〕戸嶋惣兵衛） 180孝經大義証解 四卷 松浦

交翠窩〔黙〕撰—狩玄浜。

七年

五月刊〔松岡平兵衛） 181孝經大義詳略大全 四卷 毛利玄

斎〔逋客〕編—林。

又〔後印〕〔京〕 錢屋儀兵衛―岡玄斯楢。

又〔修〕〔京〕 錢屋儀兵衛 毛利貞齋（通客）編―石

岡楢諸。編者名を改む。正徳六年四月参照。

貞享元年

五月刊 157孝経大義 題〔林羅山〕（道春）点―石林。

又〔後印〕〔京〕 栗山宇兵衛―石岡落金狩規玄楢浜林。

又〔後印〕〔京〕 万屋作右衛門―石岡玄。

六月〔修〕〔京〕 小河多左衛門 151孝経大義―岡狩規玄東林

諸。柱題「孝経新註」の「新註」を削去。尾題の「終」

一字削去。寛永五年四月・文化十年参照。

二年

一月刊〔京〕 八尾市兵衛 122孝経 寺本尚友齋点―玄。

一月〔印〕〔京〕 不明 152孝経大義―岡規玄林。書肆名削去。

寛永十八年八月・天明八年十一月参照。

五年

五月刊〔京〕 西村七郎兵衛・大坂 森田庄太郎 69古文孝

経―玄林。元禄七年八月・享保十五年・宝暦十一年一月

参照。底本は孝経直解本系。

五月〔修〕〔京〕 井筒屋六兵衛 154孝経大義―玄斯林。粗黒

口部と下魚尾を削去。承応三年七月参照。

八月刊〔京〕 村上勘兵衛 182孝経大義詳解 四卷 蘆川

桂洲（正柳）撰―狩。次掲参照。

元禄元年

十月〔印〕〔京〕 森田長兵衛・奥村源兵衛 182同前書―石

岡落金規玄楢浜林。

又〔後印〕―規玄東諸。書肆名削去。享保六年二月参照。

五年

一月刊〔江戸〕 万屋清兵衛 158孝経大義―岡規玄東林。

一月刊〔京〕 新井弥兵衛・北村四郎兵衛 159孝経大義―

玄林。

又〔後印〕〔京〕 北村四郎兵衛―落玄東林。「新井弥兵

衛梓」を削去。

六年

三月刊〔京〕 大和屋伊兵衛 183孝経〔児訓〕―玄楢浜。正

徳四年五月参照。

九月刊〔京〕 出雲寺前和泉掾 160孝経大義―石斯林。

七年

八月〔印〕〔大坂〕 油屋与兵衛・京 田中庄兵衛 69古文孝

經―落狩規玄浜。貞享五年五月・享保十五年・宝曆十一年一月参照。

又〔後印〕(大坂 定栄堂吉文字屋市兵衛)―金規玄。宝曆十一年一月以後の印。

又〔後印〕(大坂 吉文字屋市左衛門)―浜。

元禄八年

九月刊〔京〕 芳野屋) 161孝経大義 貝原〔益軒〕(篤信)

点―岡落規玄浜林。

九年

六月序〔江戸後期〕刊・木活) 187孝経刊誤集解付録 千

葉祚胤校―狩。原序の年紀あるも刊行は江戸後期ならむ。

十二年

四月刊 123〔画図〕孝経―石金慶玄相東林。

十二月刊〔松崎氏) 124孝経 松崎誠洞(祐)書―玄。

十六年

一月〔修〕(大坂 野村長兵衛) 172孝経理諺抄 三卷 題

〔林羅山〕(道春)撰―玄。万治三年二月参照。

五月序刊〔京 武村新兵衛) 184孝経示蒙句解 中〔村惕斎)

(仲敬甫)撰―岡狩規東浜林諸。

又〔後印〕(京 菊華堂菊屋七郎兵衛)―岡狩玄浜林。十七年

一月刊〔京 武村新兵衛) 186孝経刊誤集解 中〔村惕斎) (仲欽)撰 増〔田立軒〕(謙)編―岡落玄相東浜林。寛政元年十一月参照。

宝永三年

三月跋刊 125孝経 〔林鳳岡〕(藤信篤)点―林。

又〔後印〕(〔京) 事親軒大和屋伊兵衛)―玄。

同三月跋〔刊・覆宝永三年三月跋刊本) 126孝経―玄。訓点・

連合符・振仮名を除いた同前書の粗なる覆刻。跋文のみ

訓点・連合符・訓仮名あり。

九月刊〔中村氏詩林堂・覆明) 271〔八分〕孝経―岡狩規玄林。

寛延元年八月参照。

五年

九月刊〔大坂 小間物屋・覆元禄十六年五月序刊本) 185孝

経示蒙句解 中〔村惕斎) (仲敬甫)撰―玄相。

又〔後印〕―岡落金玄相林。書肆名削去。享保三年六月参

照。

正徳四年

五月〔印〕〔京〕大和屋伊兵衛 183 孝経〔児訓〕―岡玄。

元禄六年三月参照。

又〔後印〕〔京〕錢屋庄兵衛―石岡玄相浜林。

又〔後印〕〔京〕錢屋庄兵衛・錢屋治兵衛―金東。

正徳五年

三月序刊〔藝州倉橋 敬長館藏板〕 304 孝経外伝 山崎〔關

齋〕〔敬義〕編―林。寛政二年参照。

六年

四月〔通修〕〔京〕錢屋儀兵衛 181 孝経大義詳略大全 四

卷 毛利貞齋〔逋客〕編―玄相東林。鼈頭増補。本文卷

二、十七ウ・十八才等を改む。延宝七年五月参照。

享保二年

刊〔京〕柳枝軒茨木多左衛門 188 孝経釈義便蒙 二卷 竹

田春菴〔定直〕撰 貝原益軒訂―岡狩慶相林。

又〔明治〕印〔京〕瑞錦堂―林。享保三年・明治十七年

八月参照。

三年

一月刊 190 孝経安知鈔 三卷 勝田祐義撰―岡金狩規玄斯東。

明和四年三月、安永五年十月・明治十七年参照。

六月〔印〕〔大坂〕河内屋宇兵衛 185 孝経示蒙句解 中〔村

惕齋〕〔仲敬甫〕撰―岡玄斯林。宝永五年九月参照。

刊〔京〕柳枝軒茨城多左衛門 189 孝経便蒙付纂 二卷 竹

田春菴〔定直〕撰 貝原益軒訂―浜。享保二年・六年、

明治十七年八月参照。〔参考〕 188 孝経釈義便蒙と合印せ

る京 柳枝軒後印本―落玄林、同じく大坂 河内屋茂兵

衛後印本―浜、同じく大坂 鹿田静七〔明治〕印本―大

阪天満宮あり。

六年

二月〔印〕〔大坂〕吉田松根堂加賀屋善蔵 182 孝経大義詳解

四卷 蘆川桂洲〔正柳〕撰―玄。貞享五年八月・元禄元

年十月参照。

四月跋刊〔覆古活〕 65 古文孝経 清原尚賢校―落金狩玄相。

又〔後印〕〔京〕博文堂丸屋市兵衛―規相林。

〔印〕〔京〕茨城多左衛門 189 孝経便蒙付纂 二卷 竹田春

菴〔定直〕撰 貝原益軒訂―狩。金は見返・奥付共無し。

享保三年・明治十七年八月参照。

十五年

〔印〕〔大坂〕吉文字屋市兵衛 69 古文孝経―林。元禄七年

八月の刊記そのまま残る。貞享五年五月・元禄七年八月・宝曆十一年一月参照。

享保十七年

十一月刊(江戸 紫芝園蔵板) 70孝経 太宰〔春台〕(純)

音校―石岡落金規玄相浜林。〔参考〕享保十六年十一月

の太宰純序を持ち、単辺無界無刊記の〔江戸後期〕覆刻

本―規慶あり。また同序を有し単経の、松前徴典館〔江

戸後期〕刊木活本―函館市立図書館あり。

又〔後印〕(江戸 嵩山房)―金狩浜。

延享元年

五月刊(江戸 須原屋小林新兵衛) 2孝経 〔太宰〕春台点

―玄林諸。

寛延元年

八月〔修〕(江戸 西村源六・京 中野宗左衛門) 27〔八分〕

孝経 〔松下〕烏石閣―規東林。尾題削去。宝永三年九

月参照。

又〔後印〕(京 玉樹堂唐本屋吉左衛門)―石玄斯相浜。

宝曆三年

一月刊(京 華文軒中西卯兵衛・向榮堂山田三郎兵衛) 262

孝経鄭註 偽題漢鄭玄注 良〔野華陰〕(芸之)編―石  
落金規玄相浜林。

又〔後印〕―筑波大学図書館。書肆名削去。

又〔後印〕(京 堺屋嘉七等)―東。

又〔修〕(京 堺屋嘉七)―石狩玄林。卅三―卅五丁全葉

修刻。文政五年春参照。

七月刊(京) 風月堂莊左衛門) 277孝経音義・論語音義―

狩玄。

又〔後印〕(大坂 象牙屋治郎兵衛等)―大阪天満宮・斯。

四年

五月刊(江戸 大和田安兵衛) 24古文孝経付积文 馬場春水

書―浜林。陰刻。

刊(京 山田三良兵衛・中野宗左衛門) 25孝経 〔松下烏

石〕(葛辰)書―林。陰刻。

六年

二月刊(江戸 名山閣和泉屋吉兵衛〔木瓜亭蔵板〕) 191孝経

述(九述卷之二) 赤松太庾(弘)撰―岡狩規玄相浜。

又〔後印〕(江戸 出雲寺和泉掾)―規林。

九月刊(江戸 玉海堂藤木久市〔繁塾蔵板〕) 192孝経〔集

説〕井〔上〕金峨〔立元〕撰―狩。

宝曆七年

七月〔印〕（江戸 柳枝軒小川彦九郎等） 247 孝経 伝晋王羲

之書―玄。陰刻。明和七年秋参照。〔参考〕玄林に初印

本と思われる無刊記本あり。又江戸 小川彦九郎等の無

刊記後印本―狩あり。

九年

二月〔跋〕刊 248〔孝経〕（呉文正公較定本） 田口正胤書―狩。

十一年

一月〔印〕（大坂 定栄堂吉文字屋市兵衛） 69 古文孝経―玄。

元禄七年八月の刊記そのまま残る。貞享五年五月・元禄

七年八月・享保十五年参照。

五月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛・覆享保十七年十一月刊

本） 71 孝経 太幸〔春台〕（純）音校―岡金玄斯林。

十三年

九月〔印〕（京 斯文堂林宗兵衛） 194 孝経〔斎氏伝〕 195 孝経

外伝 斎〔宮静斎〕（叔子）撰―相林。〔参考〕初め単行

か。194―玄、195―玄共に無刊記。又天理図書館に「孝経

伝」の題簽を付す無刊記合印本あり。

明和元年

十一月刊（京 文泉堂） 113〔唐音〕孝経 石川〔金谷〕（貞）

音―石玄東。

二年

九月〔修〕（大坂 永昌堂柏原屋佐兵衛） 105 孝経―岡玄。寛

文七年三月参照。初印本未見。匡郭・版心に比し文字美

麗。

又〔通修〕（京 升屋勘兵衛）―玄浜。第一丁新刻。第二

丁以下総振仮名を削去、少々削り残しあり。玄は浜より

残存部分多し。

四年

三月〔修〕（大坂 丹波屋半兵衛） 190 孝経国字解 三卷 勝

田祐義撰―玄林。享保三年一月参照。

又〔後印〕（大坂 玉筥堂丹波屋半兵衛）―東。刊記の誤

刻「丁戌」を「丁亥」と改む。安永五年十月・明治十七

年参照。

閏九月序刊（江戸 越後屋藤兵衛〔考槃堂蔵板〕・覆宝曆六

年九月刊本） 193 新刻孝経集説〔井上〕金峨撰―浜。

又〔後印〕（江戸 藤木久市等）―狩玄東。狩は書肆名「同

〔前川〕長八の「長八」を削去せる後印本。

又〔後印〕（江戸 藤木久市等）―石林諸。書肆前川長八に変わり山口吉郎兵衛が加わる。

明和五年

三月刊（京 博文堂田中市兵衛） 140 孝経〔指解補註〕 南宮

〔大湫〕（岳）補注―金。

又（津 大森伝右衛門等）―狩規玄相浜林。〈参考〉七才・

第九―十三・十五丁を修刻せる三重 桂雲堂豊住伊兵衛

〔明治修〕印本―林、奈良 桂雲堂豊住書店後印本―岡

規玄あり。但し岡は奥付なし。

七年

三月序刊（獲麟蔵板） 96 孝経 松平孤龍（龔）校―東浜林。

三月序刊 1% 古文孝経国字解 二卷 藤之元撰―相。次掲参

照。

八月〔修〕（江戸 嵩山房小林新兵衛） 1% 同前書 題〔太宰〕

春台点 〔藤之元〕撰―岡落金玄相浜林。一才末行「君」

を「天」と改む。〈参考〉無年紀の奥付を付す江戸 小

林新兵衛後印本―金規玄あり。

九月刊（京 博文堂丸屋市兵衛） 198 古文孝経国字訓 三卷

〔芥川〕徂山述―金玄斯林。寛政十年十二月参照。

秋〔印〕（江戸 五好堂小川庄七） 247 孝経 伝晋王羲之書―

玄。宝暦七年七月参照。〈参考〉無年紀の江戸 五好堂

小川庄七印本―相、同じく江戸 柳枝軒小川彦九郎・京

同茨城多左衛門後印本―林、同じく京 尚書堂堺屋仁兵

衛後印本―規東、奥付のない後印本―石玄相あり。

十一月刊（大坂 永昌堂柏原屋佐兵衛・丹波屋半兵衛） 199

孝経児訓 山崎長卿撰―金。

又〔修〕（大坂 永昌堂柏原屋佐兵衛・丹波屋半兵衛）

199 孝経旁訓―玄。

又〔後印〕（大坂 柏原屋与左衛門）―未見。

又〔後印〕（京 升屋勘兵衛）―大阪大学付属図書館・大

阪府立図書館・落相林。同前刊記の後に升屋の奥付を付

す。

八年

十一月刊（江戸 青山堂鷹金屋義助） 249 合刻四書 四卷（孝

経）字〔佐美〕兼山（世璠）点―林。

又〔修〕（江戸 青山堂鷹金屋義助）〔片〕山兼山（世璠）

点―岡浜林。文政元年八月・天保七年五月参照。

又〔後印〕（江戸 嵩山房小林新兵衛）―玄東。天保七年

五月以後の印。

又〔明治〕印（東京 和泉屋金右衛門）―浜。

明和九年

一月序刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 84〔古文〕孝経〔標

註〕太宰春台（純）音〔片〕山兼山（世璠）点標注―

岡落規東林。

刊〔笠間〕時習館藏板） 26孝経付弟子職・容節―規玄斯

林。

安永二年

九月刊（大坂 河内屋八兵衛） 116新刻孝経〔野田〕西派校

―岡林。天明七年六月・同八年十一月・天保五年一月参

照。

四年

一月刊（奚疑塾藏板） 294孝経集覽 二卷 山本北山（信有）

編校―岡規玄斯林。

又〔後印〕（江戸 嵩山房小林新兵衛）―落狩玄浜諸。寛

政二年春参照。

又〔後印〕（江戸 嵩山房小林新兵衛）―石慶東。寛政二

年春以後の印。

五年

十月〔通修〕（大坂 永昌堂柏原屋佐兵衛） 190孝経国字解

三卷 勝田祐義撰―相林。卷下の尾題削去。享保三年一

月・明和四年三月参照。

又〔明治〕印（大坂 森本文金堂河内屋太助）―岡浜。

又〔通修〕（大坂 桑林堂中野啓蔵）―狩相。卷中の内題

を削去。明治十七年参照。

七年

一月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻） 72孝経 太宰〔春

台〕（純）音校―岡狩規玄東林諸。

二月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛〔環堵室藏板〕） 200〔冢註〕

孝経 冢田大峯（虎）撰―岡落狩規玄相浜林諸。

又〔後印〕（江戸 嵩山房小林新兵衛）―石相浜。

又〔明治〕印（東京 嵩山房小林新兵衛）―東。

八年

九月刊（京 武村嘉兵衛・浅井莊右衛門） 295孝経集伝付呉文

正公刊誤 新井白蛾（祐登）撰―相東。

九年



六月序刊(北筑 南溟堂藏板) 27孝経 亀井南冥(魯)点

規玄東。刊年を記さぬ覆刻本あり。天保十五年八月参照。

又〔修〕(北筑 南溟堂藏板)―東。一才第四行・五ウ第

三行「訓」の送仮名を「ス」と改む。

安永十年

一月跋刊(京 循古堂近江屋治郎吉・覆清か) 278韻字孝経

解 大江〔玄圃〕(資衡)点―落玄相浜林。

三月刊(大坂 永昌堂荒木佐兵衛) 120孝経 題山崎闇齋点

鈴木定寛校―岡玄林。

又〔後印〕(大坂 池内八兵衛)―石。

又〔修〕(大坂 池内八兵衛)―玄林。版心下象鼻の「〇

永昌堂版」を削去。跋文中の「永昌主人」を「池内主人」と改む。寛政十年春・天保八年六月参照。

天明元年

五月刊(京 弘章堂山本長兵衛・循古堂近江屋治郎吉) 201

孝経童子訓 上河〔淇水〕(正揚)撰 下河辺拾水画―

玄相諸。玄諸は「日本年代略記」に「(天明)二」と加

刻。それ以後の印か。天明七年・寛政元年・文政七年五

月・嘉永六年九月参照。

八月刊(嘉靖堂藏板) 92〔古文孝経序跋〕 木〔村兼葭堂〕

(孔恭)編―関西大学図書館。

又〔後印〕(大坂 柳生助七等)―石狩規玄相東林。

十月刊(京 田中市兵衛〔清原家藏板〕) 97孝経(清家正本)

清原宣条校―石岡落金規玄斯東浜林。〔参考〕刊年を記

さぬ江戸 嵩山房小林新兵衛後印本―狩玄浜林あり。

十一月刊(名古屋 藤屋吉兵衛等) 202孝経直解 松平君山

(秀雲)撰―狩規玄浜。書肆三軒。

又〔後印〕(名古屋 藤屋吉兵衛等)―岡規相林。書肆四

軒。同上書肆の住所の記載なきもの―大阪大学図書館・

落は更に後印か。

二年

三月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・翻清知不足齋叢書本)

93孝経付古文孝経(宋古文) 題太宰〔春台〕(純)音―岡

金狩規玄東林。

三年

一月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛) 29孝経―玄林。

九月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・覆延享元年五月刊本)

3孝経〔太宰〕春台点―岡金玄林。

天明四年

月参照。

五月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛) 203古文孝経〔国字口義〕

六月〔修〕(大坂 崇高堂河内屋八兵衛) 116孝経〔野田〕

菅〔井〕霸陵(敬勝)撰―狩玄。

西派校―岡落規玄浜林諸。安永二年九月参照。山崎〔關

八月刊(一関 一関学館蔵板) 31孝経 衣関甫軒(敬鱗)

斎(嘉)点と題するものあり。

校―林。

又〔後印〕(大坂 秋田屋太右エ門等)―岡規林。天明八

五年

年十一月・天保五年一月参照。

刊(千住 関屋海野寿翁蔵板) 204こうきやう―玄。

又〔後印〕(大坂 秋田屋太右衛門等)―岡。天保五年一

六年

月以後の印。

九月刊(大坂 興文堂亀屋安兵衛〔淡〕〔路〕島 監憲斎蔵

十一月刊(大坂 清水長右衛門等) 207經典餘師(孝経) 溪

板) 205古文孝経解〔田〕中道斎(仲和)撰 中田謙

百年撰―玄林。

斎(敏)校―岡金狩規玄東浜林。

又〔後印〕(大坂 柏原屋嘉兵衛等)―玄。〔参考〕無年紀

十一月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛) 32孝経 平林三嶽(可

の)大坂 賭春堂山口屋又一後印本―東あり。

儀)書―狩玄。陰刻。

〔修〕(京 弘章堂山本長兵衛・循古堂近江屋治郎吉) 201孝

七年

経童子訓 上河〔淇水〕(正揚)撰 下河辺拾水画―楳

一月刊(大坂 文粹堂増田源兵衛) 141孝経〔指解〕―規玄浜

浜。「日本年代略記」の「(天明)七」迄(浜は八迄)加

林。〔参考〕「今茲丙午〔天明六〕請 官上木」の刊語を

刻。天明元年五月・寛政元年・文政七年五月・嘉永六年

残す江戸 嵩山房小林新兵衛後印本―狩規林あり。

九月参照。

又〔明治〕印(東京 小林新兵衛)―浜。

八年

一月刊(京 浅井有斐堂) 206孝経〔箋注〕―玄。寛政七年一

一月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛) 220古文孝経和字訓 塚

田大峯撰―岡金狩規玄東浜林諸。

一月刊〔江戸 西村源六等〕 305服膺孝語 宇〔佐美瀧水〕

〔惠〕編―玄。文政五年春参照。

六月跋刊〔篠山 振徳堂蔵板〕 283玄宗御註孝経補義 福井

〔敬齋〕〔軌〕撰―狩玄。

又〔修〕〔篠山 振徳堂蔵板〕―岡落規玄相林諸。一才第

四行「問居」を「閑居」に等修刻。

又〔通修〕〔篠山 振徳堂蔵板〕―石岡玄斯相林。尾題後

の「天明八季……巨米照乗拜手稽首敬書」を削去。石玄林

は刊記の前に三行加刻せる更なる通修本。寛政五年四月

参照。

又〔通修〕―規玄東。〔藤原忠裕〕序（非写刻体・三丁）

あり。寛政五年四月以後の印。

又〔明治〕印（東京 宮嶋儀三郎）―東。

秋刊〔会津〕日新館蔵板〕 90孝経孔氏伝〔太宰春台〕音

田蒼梧（大齡）・島翺楊阜（冲夫）点標注―石岡規玄東

浜林諸。

十一月刊〔江戸 西村源六等〕〔□□堂蔵板〕 221孝経小解

〔熊沢蕃山〕〔息游軒〕撰―岡金狩規玄相林。書肆三軒。

又〔後印〕〔江戸 西村源六等〕―狩東。書肆五軒。

又〔後印〕〔江戸 嵩山房小林新兵衛〕―岡慶玄相浜林。

文政三年十月参照。印面と、広告書目中に83孝経（文政

十二年四月刊）を載せることから、恐らく文政三年十月

印本以後の印ならむ。

十一月〔印〕〔大坂 崇高堂河内屋八兵衛〕 152孝経大義―石

狩。寛永十八年八月・貞享二年一月参照。

十一月〔印〕〔大坂 崇高堂河内屋八兵衛〕 166孝経大義（本末

本）〔杠宗之〕首書―金相林。金林は口絵に183孝経〔児

訓〕の孝図を付す。明暦三年一月参照。

又〔後印〕〔江戸 嵩山房小林新兵衛〕―岡慶玄相林。

又〔明治〕印（東京 嵩山房小林新兵衛）―浜。

十一月〔通修〕〔大坂 河内屋八兵衛・同字八〕 116孝経 題

山崎〔闡齋〕（嘉）点〔野田西派〕校―岡玄林。天明七

年六月修本と最終丁のみ異なる。安永二年九月・天保五年

一月参照。

十二月〔印〕〔大坂 河内屋八兵衛等〕 164孝経大義（本末本）

〔杠宗之〕首書―相。明暦三年一月参照。

又〔後印〕〔大坂 藤屋善七〕―岡東。

又〔後印〕(京) 文正堂近江屋卯兵衛―林。

刊(江戸) 嵩山房小林新兵衛) 33孝経〔沢田〕東江書―狩

玄東。

寛政元年

三月刊(江戸) 嵩山房小林新兵衛・覆刻) 73孝経 太宰〔春

台〕(純) 音校―岡狩玄相。

五月序刊(大坂) 中井氏) 34孝経 中井尚善校―林。

十一月刊(門人蔵板) 222〔国訳〕古文孝経 松本梧園(廉

安) 撰―狩規玄相。

十一月印(大坂) 泉本八兵衛) 186孝経刊誤集解 中〔村悵

斎〕(仲欽) 撰 増〔田立軒〕(謙) 編―金林。元禄十七

年一月参照。

又〔後印〕(江戸) 小林新兵衛)―岡狩規玄相東林諸。

刊(江戸) 嵩山房小林新兵衛) 223古文孝経孔伝参疏 三卷

〔片山〕兼山閱 山中祐之編―岡落金規慶玄斯相東浜林

諸。

又〔明治〕印(東京) 嵩山房小林新兵衛)―岡東。

〔通修〕(京) 弘章堂山本長兵衛・循古堂近江屋治郎吉) 201

孝経童子訓 上河〔淇水〕(正揚) 撰 下河辺拾水画―

岡林。「日本年代略記」の「寛政<sup>土己</sup>正月改元」迄年紀を入

れ、天明年間的主要事件を加刻。天明元年五月・同七年

参照。

又〔後印〕(京) 弘章堂山本長兵衛・林安五郎)―岡。文

政七年五月・嘉永六年九月参照。

二年

二月跋刊(会津) 西学・木活) 35孝経 田蒼梧(大齡)

校―玄。

三月跋刊 297中文孝経付孝経考異 矢野篁校―林。

春〔印〕(江戸) 嵩山房小林新兵衛) 294孝経集覽 二卷 山

本北山(信有) 編校―岡・早稲田大学図書館。上廿九ウ

標注欠損。

六月刊(京) 玉樹堂唐本屋吉左衛門・覆〔元禄〕覆明刊本)

280孝経註疏 九卷―規玄相浜林。〔参考〕無年紀の大坂

象牙屋治郎兵衛等後印本―斯相あり。

八月刊(江戸) 嵩山房小林新兵衛・覆天明二年三月刊本)

94孝経付古文孝経(宋古文) 題太宰〔春台〕(純) 音―岡

規玄相浜林諸。

十一月刊(京) 川上軒・覆明曆二年四月刊本) 144孝経刊誤

〔山崎闇齋〕点―石岡金規玄相東浜。

又〔後印〕(京 出雲寺松栢堂)―林。

〔修〕(藝州倉橋 敬長館藏板) 304孝経外伝 山崎〔闇齋〕

(敬義) 編―石岡玄。訓み等改む。正徳五年三月参照。

又〔通修〕(藝州倉橋 敬長館藏板)―金浜林。刊記後の、

序の年紀に関する注文中の数字を、拙き為改めしか。

寛政三年

夏刊(豆州 円通山藏板) 224神儒仏三法孝経口解 三卷

釈東嶺円慈撰―狩慶玄相林。

冬序刊 263孝経〔鄭註〕(群書治要本) 〔河村乾堂〕(藤益根)

編校―石狩規玄相浜林。林に名古屋 永楽屋和助後印本

の影写と思われるものあり。

刊(京 博厚堂武村嘉兵衛・有斐堂浅井庄右衛門・覆安永八

年九月刊本) 296孝経集伝付呉文正公刊誤 新井白蛾(祐

登) 撰―落玄浜林諸。

又〔後印〕(京 菱屋孫兵衛)―玄林。

四年

一月刊(大坂 崇高堂泉本八兵衛・京 玉照堂野田儀兵衛・

覆清) 169孝経・弟子職―岡玄相林諸。

又〔後印〕(大坂 崇高堂泉本八兵衛等)―石狩規東。

九月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・覆天明三年九月刊本)

4孝経〔太宰〕春台点―岡玄林。

題九月刊(江戸後期)刊・若山 青霞堂帯屋伊兵衛) 5孝

経〔太宰〕春台点―初印本未見。

又〔明治〕印(和歌山 平井五狩堂平井文助)―石。

刊(水戸) 咸章堂) 36孝経―岡狩玄浜林。

五年

四月〔印〕(京 林伊兵衛等) 283玄宗御註孝経補義 福井

〔敬齋〕(帆) 撰―規・筑波大学図書館。天明八年六月参

照。

七月刊(江戸) 小林新兵衛(時習館藏板) 306孝経外伝集

解 村瀬櫟岡(観) 撰―石慶相浜林諸。

十月刊(京 吉田新兵衛等) 170〔古文〕孝経〔説〕―落玄。

明治五年四月・同十月参照。

十一月跋刊(織田氏賛襄館藏板) 37日本国草莽儒業織田氏

賛襄館二世盟主越山大先生訂解孝経正文 織田越山校―

玄林。

六年

一月刊(名古屋 永楽屋片野東四郎) 264孝経鄭註(群書治要本)

岡田新川(挺之) 編点―榻。文政五年春参照。〈参考〉

名古屋 永楽堂片野東四郎の刊年を記さぬ後印本―岡金  
狩規東浜あり。落に見返・奥付なきものあり。

六月刊(大坂 泉本八兵衛・赤松九兵衛へ津和野 津和野府

学蔵板) 127孝経 山口〔剛齋〕(景德) 点―東林諸。

十月序刊 225古文孝経解詁 〔宮田〕五溪(平龍) 撰―石狩  
東。

十一月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻) 74孝経 太宰

〔春台〕(純) 音校―石岡玄相東浜。

十一月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・覆明和九年一月序刊

本) 85〔古文〕孝経〔標註〕 太宰春台(純) 音 〔片〕

山兼山(世璠) 点標註―岡玄東浜林。

寛政七年

一月〔修〕(京 中川藤四郎) 206孝経〔箋注〕―石岡玄相林。

尾題を「孝経箋注終」と改む。天明七年一月参照。

六月刊(津軽 稽古館蔵板・覆〔太宰〕春台点本) 15孝経―

東。明治十二年十一月参照。

十一月刊(京 久保権八郎) 107孝経 題山崎〔闇齋〕(嘉)

点―初印本未見。

又〔後印〕(京 菱屋孫兵衛)―玄。版式から見て江戸前

期刊本の覆刻か。安政五年五月参照。

九年

三月刊(江戸 耕書堂薦屋重三郎) 226孝経 石川雅望訓解

―狩浜。

十二月序刊(江戸 豊島氏) 由己堂蔵板) 308孝経餘論 豊  
〔島豊洲〕(幹) 撰―規。

同十二月序刊(江戸 豊島氏) 由己堂蔵板) 309孝経餘論

豊〔島豊洲〕(幹) 撰―狩。版下を書直す。文章・文字

等改む。

刊(〔秋田〕 明道館蔵板) 298〔較定〕孝経 山本北山(信

有) 校―岡落狩規玄斯相東浜林諸。単行のものと、次掲

307経義撮説と組んで出されしものとある如し。

〔同〕刊(〔秋田〕 明道館蔵板) 307経義撮説 山本北山(信

有) 撰―岡落狩玄斯相東浜林。前掲書参照。

十年

春〔序〕〔通修〕(大坂 西河堂池内八兵衛) 120孝経 題山

崎闇齋点 鈴木定寛校―規玄。安永十年三月・天保八年

六月参照。

五月刊（江戸 衆星閣角丸屋甚助・覆太宰〔春台〕音校本）

81 孝経 太宰〔春台〕（純）音 闕名者点―規玄浜林。

刊（甲斐 渡辺角右衛門蔵板） 284 孝経御註訳義 平柿園（景

敬）撰―岡狩玄東林諸。

又 秋〔印〕（京 汲古堂河南儀兵衛） 284 同前書―狩玄相

東。相は奥付なし。

十二月修（京 田中市兵衛） 198 古文孝経国字辨 三卷〔芥

川〕徂山述―岡玄相林。明和七年九月参照。

寛政十一年

十月序刊（木活・「佚存叢書」所収） 99 古文孝経〔林〕天

瀑校―狩玄浜。

刊（〔会津〕 日新館蔵板） 38 孝経 猪維嶽校―規。

十二年

五月序刊（京 堺屋伊兵衛信成・河南儀兵衛共利） 267 孝経

〔佐野山陰〕（藤原憲）校―石岡落金狩規慶玄相東浜林諸。

五月跋刊（〔江戸 屋代輪池〕〔源弘賢〕・摸刻享祿四年三条

西実隆手写本） 268 孝経 三条西公条点―石岡金狩規玄

斯相東浜林。

夏刊（江戸 嵩山房小林新兵衛〔山本氏蔵板〕） 100 古文孝経

（足利本） 山本南陽（龍）校―狩玄林。玄は奥付なし。文

化十一年夏・文政十二年四月参照。

享和元年

二月刊（京 吉村吉左衛門〔中山侯蔵板〕） 281 孝経註疏 九

卷―玄東林。

又〔後印〕（大坂 米田清右衛門等）―規東。

二年

三月跋刊（米沢 好生堂） 91 孝経 題太宰〔春台〕（純）音

〔渋井〕 太室点標注―岡狩規玄浜林。

八月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 228 孝経古伝 徳力桃溪

（良翰）撰―規東。

十月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 229 古文孝経解 金勝仙

撰―岡狩。狩は刊記「小林高英板」の「板」の字を削去

せし後印本。

又〔修〕（江戸 嵩山房小林新兵衛）―浜。一才第五行「子

曰」を「子曰」等と改む。

又〔後印〕（江戸 嵩山房小林新兵衛）―金玄相東林。ひ

ろめ付の見返を用う。

享和三年

五月刊(大坂 油屋甚七) 310孝経大義略之抜書 観瀾斎澗

浦撰―玄林。

八月刊(江戸 関口氏・覆太宰〔春台〕音校本) 82孝経

太宰〔春台〕(純)音 闕名者点―岡。

十二月刊(〔川越藩〕) 39孝経―岡玄相東浜林。

文化元年

十二月刊(下総 窪木氏息耕堂蔵板) 265〔補訂鄭註〕孝経

窪木〔竹窓〕(清淵)編―狩規梶。

又〔修〕(下総 窪木氏息耕堂蔵板)―石玄林。第一丁修

(林は原刻)。跋文中の清淵題署の次に印二顆を刻す。

又〔通修〕(下総 窪木氏息耕堂蔵板)―金相浜。跋文第

二丁修。跋文末の清淵の題署を「享和二年……」と改行。

二顆の印は刻さず。文化九年八月参照。

二年

三月刊(江戸 川喜田善次郎・覆刻) 11孝経〔太宰〕春台

点―規林。

四年

三月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻) 75孝経 太宰〔春

台〕(純)音校―石岡玄浜林。

八月刊(江戸 須原屋孫七・京 林権兵衛・覆明) 282孝経

会通―玄。〔参考〕刊年を記さぬ江戸 嵩山房小林新兵

衛後印本―狩玄浜、同じく〔朝川〕善庵校閲と題する東

京 嵩山房小林新兵衛〔明治〕印本―東林あり。

五年

一月刊(京 堺屋伊兵衛信成〔菅家蔵板〕) 270孝経御註 菅

原為徳校―石岡落金狩規玄東浜林。

六年

三月刊(江戸 耕書堂蔦屋重三郎・覆寛政九年三月刊本)

227孝経 石川雅望訓解―金狩規玄斯。中本。

又〔後印〕(江戸 耕書堂蔦屋重三郎)―相東。半紙本。

又〔後印〕(江戸 慶元堂和泉屋庄次郎)―玄相林(中本)。

玄相浜(半紙本)。

又〔後印〕(江戸 嵩山房小林新兵衛)―東林諸。中本。

三月序刊(〔江戸〕 学古塾蔵板) 40古文孝経定本 朝川善

菴(鼎)校―石岡落金狩規玄東浜林。明治六年三月参照。

五月刊(江戸 岡田屋嘉七・須原屋新兵衛) 42孝経 井坂

一清書―岡規玄林。陰刻。



七月刊(大坂) 文金堂河内屋太助・曙春堂山口屋又市・覆天

明七年十一月刊本) 209 經典餘師(孝経) 溪百年撰―岡

金狩玄斯相東林。

文化八年

十一月刊(江戸) 小林新兵衛等) 311 古文孝経私記 二卷

朝川〔善庵〕(鼎) 撰―岡玄東林。〈参考〉刊年を記さぬ

江戸 嵩山房小林新兵衛後印本―石岡落玄相、同じく東

京 嵩山房小林新兵衛〔明治〕印本―斯浜あり。

十二月刊(仙台) 養賢堂蔵板) 146 孝経刊誤 大槻〔平泉)

(清準) 点―狩玄林。

九年

三月刊(江戸) 嵩山房小林新兵衛・覆刻) 6 孝経 〔太宰〕

春台点―狩玄林諸。

八月〔印〕(江戸) 西宮弥兵衛等) 265〔補訂鄭註〕孝経 窪

木〔竹窓〕(清淵) 編―狩規。文化元年十二月参照。

十年

春刊(〔名古屋〕) 片野東四郎等) 230 絵本孝経(外題) 〔歙形〕

蕙斎画―斯。

又 〔後印〕(〔名古屋〕) 片野東四郎等)―岡落相東林。刊

記の「西村源六」を「小林新兵衛」に改む。口絵彩色刷のもの早印。

又 〔後印〕(江戸) 小林新兵衛)―岡狩玄相東林諸。

〔印〕(大坂) 加賀屋善蔵) 151 孝経大義―岡金規玄林。寛永

五年四月・貞享元年六月参照。

十一年

夏〔印〕(江戸) 嵩山房小林新兵衛(山本氏蔵板) 100 古文

孝経(足利本) 山本南陽(龍) 校―金規玄相東浜林諸。寛

政十二年夏・文政十二年四月参照。

刊(螺嬴窟蔵板) 285〔増攷〕孝経〔鄭氏解補証〕 東条〔一

堂〕(弘) 増攷―落金狩規慶相東林諸。

又 〔修〕(螺嬴窟蔵板)―狩玄浜林。卅一丁から卅丁とな

る。修全葉に亘る。

又 〔通修〕(螺嬴窟蔵板)―金玄相浜林。十二ウ第五行「当

視民証補注見釈文……」を「証補注見釈文……」等と改

む。

又 〔後印〕(江戸) 嵩山房小林新兵衛)―石岡規玄相東。

313 孝経両造簡孚との合印本―石・大東急記念文庫・早稲

田大学図書館あり。石相東の各一本と規はその別れか。

文化十二年

三月刊〔江戸〕 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕 86〔古文〕 孝経

〔標註〕 太宰春台〔純〕音 〔片〕山兼山〔世璠〕点標

注―石岡規玄斯相林。

四月刊〔江戸〕 嵩山房小林新兵衛〕 197古文孝経講釈 二卷

小林文由録―岡金狩規慶玄東林諸。本文は明和七年三月

序刊、同八月修印本を底本とした粗なる覆刻か。

五月刊〔江戸〕 山盛堂・覆文化六年七月刊本〕 210経典餘師

〔孝経〕 溪百年撰―岡狩玄東林。

刊〔官板・覆清知不足齋叢書本〕 266孝経鄭註・孝経〔鄭氏

解〕・孝経鄭註補証 岡田〔新川〕〔挺之〕編〔解〕清

減鏽・〔補〕清洪頤煊撰〕―岡金狩規玄東浜林諸。

又〔明治〕印〔昌平叢書〕所収〕―石慶斯東林。

十三年

八月序刊〔名古屋〕 東壁堂永楽屋東四郎〕 142孝経〔指解〕

神塾松篁軒〔世猷〕点―金規玄。金は見返・奥付なけれ

ど初印に近し。文政五年春参照。

又〔明治〕印〔名古屋〕片野東四郎等〕―岡落規玄相浜諸。

奥付一丁半。落に見返・奥付なきものあり。

又〔後印〕〔名古屋〕片野東四郎〕―狩規林。追記一。

九月序〔印〕〔証学堂蔵板〕 231孝経証話 高〔橋〕女護島

〔閔慎〕撰―狩東林。〔参考〕無年紀の初印本―岡玄あり。

文政元年

八月〔印〕〔江戸〕〔青蘿館〕西村宗七・松本平助〕 249合刻

四書 四卷〔孝経〕〔片〕山兼山〔世璠〕点―宮城県立

図書館。明和八年十一月・天保七年五月参照。

十一月序刊 312国字孝経〔外題〕―狩規玄東浜林。

二年

四月刊〔江戸〕 小林新兵衛・和泉屋吉兵衛・覆承応元年一月

刊本〕 301孝経宗旨・孝経引証 山〔崎〕岨峯〔如山〕

点―岡狩規玄相浜林諸。

十二月刊〔江戸〕 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕 7孝経〔太

宰〕春台点―岡規玄林。

十二月刊〔江戸〕 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕 76孝経 太宰

〔春台〕〔純〕音校―岡金規玄斯相東。

三年

十月〔印〕〔江戸〕 文会堂山田佐助〕 221孝経小解 熊沢〔蕃

山〕〔了芥〕撰―岡金狩林。天明八年十一月参照。

刊〔白華園蔵板〕 299 孝経定本 源竹溪（継光）校標注―玄。  
文政五年

春〔印〕（名古屋） 永楽屋東四郎等） 262 孝経鄭註 偽題漢  
鄭玄注 良〔野華陰〕（芸之）編―岡。宝暦三年一月参  
照。

春〔印〕（名古屋） 永楽屋東四郎等） 305 服膺孝語 宇〔佐  
美瀧水〕（恵）編―浜林。天明八年一月参照。〈参考〉刊  
年を記さぬ名古屋 永楽屋東四郎等後印本―斯、同じく  
名古屋 永楽屋東四郎等〔明治〕印本―玄相あり。

春〔印〕（名古屋） 永楽屋片野東四郎等） 264 孝経鄭註（群書  
治要本） 岡田新川（挺之）編点―落林。寛政六年一月参  
照。〈参考〉 262 孝経鄭註の良芸之序を流用せる刊年を記  
さぬ名古屋 永楽屋片野東四郎等修印本―玄、同じく名  
古屋 永楽屋片野東四郎等〔明治〕印本―規玄林、同じ  
く大坂 嵩山堂青木恒三郎後印本―石林あり。

春〔印〕（名古屋） 永楽屋東四郎等） 142 孝経〔指解〕 神  
埜松篁軒（世猷）点―石林。文化十三年八月参照。以上  
四種の文政五年春〔印〕本は全て同奥付。

六年

春序刊（二本松 二本松学館蔵板） 114 孝経 源腕校標注―  
金玄。

十月跋刊（福山） 阿〔部〕正精・摸刻弘安二年九月鈔本・  
朱墨套印） 101 孝経―金狩玄斯相東林諸。大阪府立図書  
館に初印と思われる折本あり。

七年  
五月序刊（松賢齋蔵板） 232 孝経考文 〔永井〕珍齋（江襲吉）  
撰―狩玄浜。

五月〔印〕（大坂 河内屋新次郎） 201 孝経童子訓 上河〔淇  
水〕（正揚）撰 下河辺拾水画―東。天明元年五月・天  
明七年・寛政元年・嘉永六年九月参照。

題十月刊（津 山形屋伝右衛門等） 286 孝経〔發揮〕 津阪  
〔東陽〕（孝綽）撰―狩玄浜。文政九年参照。実は文政九  
年刊本の後印にて、尾題の「孝経全」の「全」字を改む  
るものあり。

又〔修後印〕（津 山形屋伝右衛門等）―玄。有造館修印  
本の後印。  
九年

十一月跋刊（江戸 狩谷氏求古楼・覆北宋天聖明道間刊本）

272〔御注〕孝経―規東。

又〔修〕〔江戸 狩谷氏求古楼〕―岡落規玄斯相東浜林諸。

〔校譌〕中の欠筆を述べる箇所を改む。「通字欠筆不知何謂……」↓「通章献明肅皇太后家諱……」。

又〔後印〕〔江戸 万笈堂英大助〕―玄。

又〔後印〕〔江戸 嵩山房小林新兵衛〕―大阪府立図書館。

又〔明治〕印〔東京 嵩山房小林新兵衛〕―石金狩規慶玄

相東浜林。嘉永四年十一月参照。

刊〔津〕有造館蔵板〕 286孝経〔發揮〕 津阪〔東陽〕〔孝

緯〕撰―岡狩玄林。文政八年十月参照。〔参考〕刊年を

記さぬ大坂 河内屋茂兵衛等後印本―林あり。

又〔修〕〔津〕有造館蔵板〕―石岡落玄斯相東浜諸。序

九ウに標注を加う。序・本文中の「耳・母」の二字を改

刻。

又〔明治〕印〔津 山形屋伝右衛門等〕〔三重県蔵板〕―

大阪天満宮・大東急記念文庫。

又〔後印〕〔津 木村光綱〕〔三重県蔵板〕―石金慶玄斯東

林。明治十九年・同三十年十月参照。

文政十年

春刊〔仰継堂蔵板〕 233孝経国字解 二卷 伊藤鹿里〔祐義〕

撰―狩規玄斯相東林。

六月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛・覆天明三年一月刊本〕

30孝経―石岡金玄相東浜林諸。

刊〔木曾 水竹居蔵板・包背装〕 43孝経―玄林。

刊〔兼子氏智聖堂蔵板〕 44孝経 兼子天来〔鼎〕点―玄林。

十二年

四月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛〕 83孝経 太宰〔春台〕

〔純〕音〔片〕山兼山〔世璠〕点〔片山述堂〕〔格〕校

―石岡金狩規慶玄東浜林諸。

又〔明治〕印〔東京 嵩山房小林新兵衛〕―東。

四月〔印〕〔江戸 嵩山房小林新兵衛〕 100古文孝経〔足利本〕

山本南陽〔龍〕校―落。前記四月刊本の奥付の流用。所

蔵者の手によるか。寛政十二年夏・文化十一年夏参照。

十三年

三月刊〔福井〕修道館蔵板〕 128孝経―狩規玄諸。

刊〔螺嵐窟蔵板〕 313孝経両造簡乎 東条一堂〔弘〕撰―斯。

丁付廿一丁。

又〔修〕〔螺嵐窟蔵板〕―落狩玄相東浜林諸。丁付の誤刻

を正し、廿二丁となる。

又「後印」(江戸 嵩山房小林新兵衛)―岡狩規玄林諸。見

返なきもの(従って無年紀)あり。文化十一年刊285〔増

攷〕孝経〔鄭氏解補証〕嵩山房後印本参照。嘉永四年十

一月参照。

刊(龍鱗館蔵板) 314待問録 東条一堂撰―玄東。

天保三年

五月刊(仙台 伊勢屋半右衛門・江戸 小林新兵衛・覆刻)

11補 孝経〔太宰〕春台点―家蔵。

五月刊(津 平松氏) 250孝経 平松〔樂齋〕〔正愨)校 大

野重民書―規玄林。

夏刊(春霞堂・覆〔太宰〕春台点本) 14孝経―規。

十一月印(京 弘簡堂須磨勘兵衛) 45孝経―玄。或は明治

印か。奥付に「天保三年壬辰十一月求版」とあるも初印

本未見。明治五年四月・同廿八年二月参照。〔参考〕無

年紀の京 弘簡堂升屋勘兵衛後印本―狩あり。

刊(江戸 嵩山房) 315孝経謹奉進 卷上 最上徳内撰―狩

規斯林。卷下未刊。

四年

六月刊(若山 帶屋伊兵衛等〔南紀 学習館蔵板〕) 287孝経

〔集伝〕 山本〔樂所〕〔惟孝)撰―石岡落狩規玄相東浜

林。

十月序刊 316示俗孝経(外題) 斎藤弘撰―石岡玄浜林。

冬刊(京 堺屋伊兵衛・朝倉儀助) 251孝経 浅野陵点―規

玄浜。

五年

一月〔印〕(大坂 秋田屋太右門等) 116孝経〔野田〕西

派校―林。安永二年九月・天明七年六月・同八年十一月

参照。

春刊(京 河野伊兵衛・朝倉儀助) 252孝経〔佐野山陰〕〔藤

原憲)点―林。

三月〔印〕(京 堺屋伊兵衛信成) 252同前書―金沢市立図書

館・玄。

刊 288孝経義 二卷 金岳陽(順)撰―岡落狩規慶玄相東浜

林諸。

六年

三月跋刊(覆〔慶長〕古活字本) 66古文孝経付録(付)

山田松斎(文静)撰―石岡狩規玄浜林。

春刊〔江戸〕 朝倉佐平（江戸 松本氏蔵板） 253孝経

〔萩〕原秋岩（鞆）書一東。

四月刊（大坂 河内屋吉兵衛等〈精義堂蔵板〉） 289増補孝経

彙註 三卷 大塩〔中斎〕（源後素）増補―狩規玄東林

諸。

又〔後印〕（江戸 小林新兵衛等）―落慶相林。大正四年

五月参照。

五月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻） 8孝経 〔太宰〕

春台点―岡玄浜林。

題八月刊（京 吉野屋仁兵衛等） 46孝経 池田東籬編 菱

川清春画―相林。実は天保七年一月刊、嘉永三年春逋修

本の後印。同年参照。

十一月序刊（松響園蔵板） 234古文孝経韻語図解 岡田静安

撰―狩相。

天保七年

一月刊（京 山城屋佐兵衛等） 46孝経（外題「童子孝経指南車」）

池田東籬編 菱川清春画―玄。天保六年八月参照。

又〔修〕（京 山城屋佐兵衛等）―玄。「幼童読書目」中

の五経の順序を「春秋・詩経・易経・書経・礼記」から

「易経・詩経・書経・春秋・礼記」と改む。嘉永三年春

参照。

二月序刊（京 式洗堂蔵板） 254孝経 三国〔幽眠〕（直準）

校―規玄東林。

五月〔印〕（江戸 玉岩堂和泉屋金右衛門） 249合刻四書 四

卷（孝経）〔片〕山兼山（世瑤）点―玄。明和八年十一

月・文政元年八月参照。

八年

一月序刊（京）一洗堂蔵板） 290孝経傍訓 三国〔幽眠〕

（直準）撰―石岡落狩玄斯相東浜林諸。

六月〔逋修〕（大坂 中村三史堂塩屋弥七） 120孝経 題山崎

闇斎点 鈴木定寛校―狩規浜林。第一丁下象鼻に「鈴木

定寛句読」と加刻。安永十年三月・寛政十年春参照。

十一年

四月序刊（京 木村吉右衛門等〈烟霞堂蔵板〉） 236孝経通

二卷 蒔田雁門（貞）撰―関西大学図書館。

又〔後印〕（大坂 河内屋茂兵衛等）―相。

又〔修〕（大坂 河内屋茂兵衛等）―狩慶玄林諸。慶林は

刊記・奥付なく見返のみ。尾題の「終」字を削去。

又〔後印〕(大坂 河内屋茂兵衛等)―東。奥付に十一肆  
連記。

天保十三年

三月刊(江戸 吉田屋文三郎) 216 孝経〔餘師〕〔溪百年〕

撰―斯林。〈参考〉無年紀の江戸 誠徳堂後印本―玄あ  
り。

刊(薩摩 薩摩府学蔵板・覆刻) 111 孝経―規玄東。

又〔修〕(薩摩 薩摩府学蔵板)―狩玄。訓仮名・送仮名  
の一部を削去。

十四年

二月序刊 235 孝経告蒙政談 佐藤〔延陵〕(貞吉)撰―玄。

三月跋〔修〕(起雲洞蔵板) 235 孝経告蒙解 佐藤大道(貞吉)

撰―玄林。

又〔通修〕 235 孝経告蒙一家政談 佐藤東山(貞吉)撰―

相浜。嘉永六年五月参照。

九月刊(大坂 文金堂河内屋太助・文積堂河内屋仁助・覆文

化六年七月刊本) 212 經典餘師(孝経) 溪百年撰―岡玄

相林。

十二月刊(江戸 〔錦彩堂〕菊地虎松・覆刻) 214 經典餘師

(孝経) 溪百年撰―玄林。

十五年

春刊(京 松栄堂著屋幸介・覆刻) 89〔古文〕孝経〔標註〕

太宰春台(純)音〔片〕山兼山(世番)点標注―石岡

金規玄林。

八月〔印〕(江戸後期)刊・京 尚書堂堺屋仁兵衛・覆安永

九年六月序刊本) 28 孝経 亀井南冥(魯)点―玄相。

初印本―関西大学図書館は、裏表紙見返に「天保九戊戌  
年求之」の墨書あるも刊年不記。〈参考〉〔太宰〕春台点

と題する江戸 嵩山房小林新兵衛修印本―金狩あり。春  
台点本の見返と序とを取合せて用い、亀井関係の名称を  
全て削去し、春台本系と同様に声点を加え訓みを改む。

弘化元年

八月跋刊(安中 板倉氏蔵板・「甘雨亭叢書」所収) 17 孝経

啓蒙 中江藤樹(原)撰―岡落金狩慶玄相東浜林。金は

弘化二年野田逸の甘雨亭叢書の序あり。

二年

三月刊(京 金華堂福島秀豊等 〔伏原―清原―家蔵板〕・覆

天明元年十月刊本) 98 孝経(清家正本) 清原宣条校―石

岡規玄。嘉永二年三月参照。

又〔修〕(京 金華堂福島秀豊等)―金玄。宣明序の二ウ

に「伏原家蔵」、後付四才の跋文後に金華堂・晨風堂の

刊語を加刻。後付第四丁以下新刻。嘉永二年三月印本の

後修。

七月序刊(江戸) 詩山堂蔵板) 95孝経 太宰〔春台〕(純)

音 小畑詩山(行簡) 校―岡規玄相東浜林。

十月刊(中井氏明善堂蔵板・木活) 291孝経纂義 二卷 中

井乾齋(豊民) 撰―岡落浜林諸。

又〔後印〕(江戸 須原屋新兵衛等)―狩玄東林。前掲と

ほぼ同時に印行せる売捌用書か。

弘化三年

十二月跋刊(京 北野宮寺学堂蔵板・包背装) 255孝経 釈

〔宗淵〕一桂校―石岡落狩玄相東浜林。玄一本にのみ刊

記あり。文化五年一月刊270孝経御註に字様似たり。

冬刊(京 学半楼蔵板) 102孝経 伊藤鳳山(馨) 点標注―

石岡金狩規慶玄相東浜林諸。規浜は奥付に「皇都 升屋

勘兵衛」なく後印か。〈参考〉無年紀の「太宰」春台音

と題せる江戸 嵩山房小林新兵衛後印本―落玄東浜林、

同じく東京 嵩山房小林新兵衛〔明治〕印本―岡林あり。

四年

十二月刊(会津 会津藩蔵板) 145孝経刊誤〔安部井帽山〕

点―岡狩浜林。明治三年六月参照。

嘉永二年

三月刊(江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻) 77孝経 太宰〔春

台〕(純) 音校―石岡規慶林。

又〔明治〕印(東京 嵩山房小林新兵衛)―規東。明治九

年二月参照。

題三月刊(明治)刊・覆嘉永二年三月刊本) 78孝経 太宰

〔春台〕(純) 音校―斯。刊記迄覆刻。

題三月刊(明治)刊・覆題嘉永二年三月刊本) 79孝経 太

宰〔春台〕(純) 音校―狩規玄相。前掲書の刊記迄の覆

刻。

三月〔印〕(京 金華堂福島秀豊等) 98孝経(清家正本) 清原

宣条校―岡狩規玄相林。弘化二年三月参照。

五月刊(江戸 嵩山房須原屋新兵衛) 237〔頭書古文〕孝経

高井蘭山撰―岡金玄林諸。

又〔明治〕印(東京 嵩山房須原屋新兵衛)―東浜。



嘉永三年

春〔通修〕〔京〕山城屋佐兵衛等〕46孝経〔池田〕東籬

編 菱川清春画―玄東。天保六年八月・同七年一月参照。

十月刊〔江戸 嵩山房須原屋新兵衛〕238繪本孝経 二卷

高井蘭山撰〔葛飾〕北斎〔前北斎出老人〕画―岡慶玄。

五肆。

又〔後印〕〔江戸 嵩山房須原屋新兵衛〕―東諸。諸国売捌

八肆。

刊〔薩摩 薩摩府学蔵板〕47孝経 筒井〔鑿溪〕〔憲〕点

市河〔米庵〕〔三亥〕書―石落金狩規相東浜林。

又〔後印〕〔大坂 伊豫屋善兵衛・相屋九兵衛〕鹿兒島藩

蔵板〕―岡玄。

四年

一月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕9孝経〔太宰〕春台

春台点―規玄林。

春刊〔岡山 松嶋屋林助〕118孝経 斎藤笠山〔寛〕校―岡。

又〔後印〕題山崎〔閻斎〕〔嘉〕点 斎藤笠山〔寛〕校―

石玄相浜。

題春刊〔江戸後期〕刊・大坂 秋田屋市兵衛等・覆嘉永四

年春刊本〕119孝経 斎藤笠山〔寛〕校―林。諸国売捌

十二肆。

又〔後印〕〔大坂 秋田屋市兵衛等〕―岡林。二都六肆。

五月〔印〕〔大坂 河内屋徳兵衛・近江屋平助〕168孝経大義

二卷〔毛利玄斎〕首書カ―玄林。延宝二年八月・同四年

二月参照。

六月序刊 240古文孝経撰字註〔外題〕二卷付六種〔九鬼〕温

斎〔藤原隆都〕撰―狩玄東林。

又〔修〕〔視如斎蔵板〕―規。序跋増刻。

又〔通修〕〔視如斎蔵板〕―東・宮城県立図書館。「孝経庶

人章」を収め「感戴賦」を不載。

又〔後印〕〔視如斎蔵板〕―規相。収録せるもの七種より

四種、付録三種と減少。

十一月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛〕20孝経〔太宰〕春台

点―岡林。天保十五年八月参照。

題十一月刊〔文政九年十一月跋刊〕〔明治〕印〔東京 嵩山

房小林新兵衛〕272〔御注〕孝経―林。文政九年十一月参

照。

題十一月刊〔文政十三年刊〕〔明治〕印〔東京 嵩山房小林

新兵衛) 313孝経両造簡字 東条一堂(弘)撰―石・早  
稲田大学図書館。文政十三年参照。以上二書前掲20孝経  
奥付の流用。

嘉永六年

五月序〔印〕 235孝経告蒙一家政談 佐藤東山(貞吉)撰―  
金玄。天保十四年二月・同十四年三月参照。

九月〔通修〕(京 俵屋清兵衛等) 201孝経童子訓 上河淇水

(正揚)撰 下河辺拾水・松川半山画―慶玄林。天明元年

五月・天明七年・寛政元年・文政七年五月参照。追記二。

刊〔新潟 常善堂蔵板〕 241孝経〔刊誤集註〕 氏家〔閑存〕

(頭)撰―狩規玄林諸。

安政二年

八月刊〔福井 帶屋喜平治・覆文政十三年三月刊本〕 129孝

経―福井市立図書館。〔参考〕刊年を削去せる福井 帶

屋喜平治後印本―岡狩玄相林、刊記を全て削去せる後印

本―規あり。

五年

五月印〔大坂 河内屋万助〕 107孝経 題山崎〔闇齋〕〔嘉〕

点―玄。寛政七年十一月参照。

又〔後印〕(大坂 河内屋源七郎)―林。

又〔明治〕印(大坂 前川源七郎)―狩。

刊〔安中〕 桃谿書院蔵板) 49孝経―林。

七年

一月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕 87〔古文〕孝経

〔標註〕 太宰春台(純)音 〔片〕山兼山(世璠)点標

注―岡狩規斯相浜林諸。明治九年二月参照。

万延元年

十一月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛・覆嘉永四年十一月刊

本) 21孝経 〔太宰〕春台点―玄林。

万延刊〔江戸 保永堂・覆刻〕 218孝経〔餘師〕〔溪百年〕撰

―玄斯林。

元治元年

二月序刊〔江戸〕 詩山堂蔵板) 242孝経 小畑詩山(行簡)

訳―狩規相浜林。

冬刊〔江戸 嵩山房須原屋新兵衛・覆嘉永三年十月刊本〕

239繪本孝経 二卷 高井蘭山撰 葛飾北斎(前北斎為

一)画―岡相浜林。

又〔明治〕印(東京 嵩山房須原屋新兵衛)―斯東。

慶応二年

一月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕 10 孝経〔太宰〕

春台点―規。

又〔明治〕印〔東京 嵩山房小林新兵衛〕―岡相東。

五月刊〔江戸 嵩山房小林新兵衛・覆刻〕 22 孝経〔太宰〕

春台点―林。

又〔明治〕印〔東京 嵩山房小林新兵衛〕―岡金玄斯相東。

三年

刊〔美作 安藤沢善藏板・覆刻〕 12 孝経〔太宰〕春台点―

規林。

又〔後印〕―林。藏板者・製本所削去。明治十年十二月参

照。〔参考〕玄に無年紀の美作 沢鳳山〔明治〕後印本

あり。

四年

春刊〔江戸 一貫堂万屋忠藏〔尚志堂藏板〕・朱墨套印〕 243

孝経参釈 川碕魯斎〔履〕撰―筑波大学図書館。

又〔後印〕〔江戸 一貫堂万屋忠藏・嵩山房小林新兵衛〕

―石岡落金狩規慶玄斯相東浜林諸。

明治三年

六月〔修〕 145 孝経刊誤〔安部井帽山〕点―狩。五・六・九・

十・十三丁以下新刻。弘化四年十二月参照。

五年

四月〔修〕〔京 花説堂須原屋平左衛門〕 170〔古文〕孝経〔説〕

―林。章名等加刻。寛政五年十月・明治五年十月参照。

四月〔印〕〔京 遠藤平左衛門等八書堂〕 45 孝経―岡狩玄東

浜。天保三年十一月・明治廿八年二月参照。

十月〔印〕〔京 花説堂遠藤平左衛門〕 170〔古文〕孝経〔説〕

―岡。寛政五年十月参照。〔参考〕無年紀の京 花説堂

須原屋平左衛門後印本―林あり。

六年

三月印〔大坂 松村九兵衛〕 41 古文孝経定本 朝川善庵校

―玄東林諸。〔参考〕刊年を記さぬ長門 育英社藏板〔江

戸後期〕刊初印本―玄あり。文化六年三月関達の例言は

同年三月序刊 40 古文孝経定本の覆刻。

刊〔大坂 文金堂森本太助・覆天保十四年九月刊本〕 213 経

典餘師〔孝経〕 溪百年撰―玄林。〔参考〕無年紀の大坂

前川源七郎後印本―岡あり。

九年

二月〔印〕（東京 嵩山房小林新兵衛） 77 孝経 太宰春台

（純）音校—岡相。嘉永二年三月参照。

二月〔印〕（東京 嵩山房小林新兵衛） 87〔古文〕孝経〔標

註〕太宰春台（純）音 片山兼山（世璠）点標注—岡

玄林。安政七年一月参照。

明治十年

十二月〔印〕（津山 万竹堂） 12 孝経〔太宰〕春台点—玄。

慶応三年参照。

十二年

十一月〔修〕（青森 神彦三郎） 15 孝経—内閣文庫。第七丁

新刻。寛政七年六月参照。

十四年

十一月刊（東京 嵩山房小林新兵衛・覆刻） 23 孝経 太宰

春台（弥右エ門）点—岡狩玄東。

十五年

七月刊（大坂 春篁堂小野藤吉） 48 孝経 川上泊堂（由蔵）

点—玄林。嘉永三年刊47孝経を底本とし、行款を変えて

改点覆刻せしもの。

十六年

三月刊（福岡 林磊落堂林斧介・覆元禄八年九月刊本） 162

孝経大義 貝原〔益軒〕（篤信）点—玄林。

六月刊（東京 嵩山房小林新兵衛・覆刻） 88〔古文〕孝経

〔標註〕太宰春台（純）音 片山兼山（世璠）点標注—

岡狩玄東林。

又〔後印〕（東京 錦栄堂大倉孫兵衛）—東。

七月刊（福岡 某〔文字消えて読めず〕・覆寛政五年十月刊、

明治五年十月〔印〕本） 171 孝経—林。

十七年

八月〔修〕（東京 嵩山房小林新兵衛） 188 孝経釈義 二卷

竹田春菴（定直）撰 貝原益軒訂—東。享保二年参照。

八月〔修〕（東京 嵩山房小林新兵衛） 189 孝経便蒙 二卷

竹田春菴（定直）撰 貝原益軒訂—玄東。享保三年・同

六年参照。

通修（大坂 松泉堂松村九兵衛） 190 孝経国字解 三卷 勝

田祐義撰—大阪天満宮。明治十七年八月五日馬場健序を

付す。享保三年一月・明和四年三月・安永五年十月参照。

十九年

〔印〕（明治）印・津 木村光綱） 286 孝経〔發揮〕 津阪〔東

陽) (孝緯) 撰—大阪府立図書館。追記三。文政八年十月・同九年・明治三十年十月参照。

明治廿四年

三月跋刊 (三条公美・覆寛政十二年五月跋刊本・朱墨套印)

269 孝経 三条西公条点—石規東浜林。

又 [修] (三条公美)—岡規慶玄斯相林。九ウ第一行「行」を「行」と改む。

廿八年

二月 [修] (京 若林茂一郎) 45 孝経 題 [太宰] 春台点—

玄林。明治五年四月京 花説堂遠藤平左衛門刊題 [太宰] 春台点「孝経」との取合せ本。45 孝経の板木は第一・二丁のみ。天保三年十一月・明治五年四月参照。

三十年

十月 [印] (津 関西図書株式会社) 286 孝経 [發揮] 津阪

[東陽] (孝緯) 撰—林。文政八年十月・同九年・明治十九年参照。

大正四年

五月跋修 (京 聖華房・朱墨套印) 289 増補孝経彙註三卷

大塩 [中齋] (源後素) 増補—岡金玄相。捐貲助費者 (木活) を載す。「右諸君子以朱字印本贈之後不復朱字印之」と。

又 [後印] (京 聖華房山田茂助)—岡玄浜。

追記

一 又 [後印] (大坂 嵩山堂青木恒三郎)—大阪天満宮。

二 天理図書館に「大坂/書林/伊丹屋善兵衛/伊丹屋新助/伊丹屋宗七/伊丹屋長兵衛/伊丹屋和助/製本発売所/諸官衙御用書林/南本町四丁目/書籍会社 (此四字陰刻)」の刊記をもつ [明治] 印本あり。

三 見返の「文政丙戌新刊/孝経發揮/三重県蔵版」とある文、政の部分が破損しており、明治丙戌と考え明治十九年刊本と著録されていたが、実は文政九年の条の「明治後印」本に等しい。